

信濃の国

作詞
作曲

浅井
北村

季晴

0/6

□□□□□□

- 1 信濃の国は十州に 境連ぬる国にして
聳（そび）ゆる山はいや高く 流るる川はいや遠し
松本、伊那、佐久、善光寺 四つの平は肥沃の地
海こそ無けれ物さわに
万（よろこ）す足らわぬ事ぞなき
- 2 四方（よも）に聳（そび）ゆる山々は 御嶽、乗鞍、駒ヶ岳
浅間は殊に活火山 いずれも国の鎮めなり
流れ淀（よど）まずゆく水は 北に犀川（さいがわ）、千曲川、
南に木曽川、天竜川
これまた国の 固めなり
- 3 木曽の谷には真木（まき）茂り 諏訪の湖（うみ）には魚（うお）多し
民の稼（か）ぎも豊かにて 五穀の実らぬ里もある
しかのみならず桑（くわ）とりて 蚕飼（こが）いの業（わざ）の打ちひらけ
細きよすがも軽（かる）からぬ
国の命を繋ぐなり
- 4 尋ねまほしき園原（そのはら）や 旅の宿りの寢覚めの床
木曽の棧（かけはし）架けし世も 心して行け久米路橋
来る人多き筑摩（つかま）の湯 月の名に立つ姨捨（うばすて）山
知るき名所と風雅士（みやびお）が
詩歌（しいか）に詠みてぞ伝えたる
- 5 旭（あさひ）將軍、義仲も 仁科の五郎、信盛も
春台、太宰先生も 象山、佐久間先生も
皆この国の人にして 文武の誉れたぐいなく
山と聳えて世に仰ぎ
川と流れて名は尽きず
- 6 吾妻（あづま）はやとし日本武（たまと）だけ
嘆き給いし碓井（うすい）山
穿（うが）つ隧道（とんねる）二十六 夢にも越ゆる汽車の道
道一筋に学びなば 昔の人にや劣るべき
古来山河の秀（ひい）でたる
国は偉人のある習い

信濃の国

作詞
作曲

浅井
北村

季晴

1 / 6

□□□□□■

1

信濃の国は十州に
境連ぬる国にして

聳(そび)ゆる山はいや高く
流るる川はいや遠し

松本、伊那、佐久、

善光寺

四つの平は肥沃の地

海こそ無けれ物さわに

万(よろ)ず足らわぬ

事ぞなま

信濃の国

作詞 浅井 洌
作曲 北村 季晴

2/6

□□□□■

2

四方

(よも)

に聳

(そび)

ゆる山々

は

御嶽、

乗鞍、

駒ヶ岳

浅間は殊に活火山

いずれも国の鎮めなり

流れ淀

(よど)

まずゆく水は

北に犀川

(さいがわ)

、千曲川、

南に木曾川、天竜川

これまた国の

固めなり

信濃の国

作詞 浅井 洌
作曲 北村 季晴

3

木曾の谷には真木(まき)茂り
諏訪の湖(うみ)には

魚(うお)多し

民の稼ぎも豊かにて

五穀の実らぬ里もある

しかのみならず桑とらて

蚕飼(こが)いの

業(わざ)の打ちひらけ

細きよすがも

軽(かる)からぬ

国の命を繋ぐなら

4

尋ねまほしき園原(そのはら)や

旅の宿りの寢覚めの床

木曾の棧(かけはし)架けし世も

心して行け久米路(くめじ)橋

来る人多き筑摩(つかま)の湯

月の名に立つ

姨捨(いへすて)山

知るき名所と

風雅士(みやびお)が

詩歌(しいか)に詠みてぞ

伝えたる

信濃の国

作詞 浅井 洌
作曲 北村 季晴

5/6

5.

旭(あさひ) 将軍、義仲も

仁科の五郎、信盛も

春台(しゅんだい) 太宰先生も

象山(ぞうざん) 佐久間先生も

皆この国の人にして

文武の誉れたぐいなく

山と聳えて世に仰ぎ

川と流れて名は尽きも



6

吾妻^(あづま)はやとし

日本武^(たまとたけ)

嘆き給いし碓井^(うすい)山

穿^(うが)つ隧道^(とんねる)一十六

夢にも越ゆる汽車の道

道一筋に学びなば

昔の人にや劣るべき

古来山河の秀^(ひい)でたる

国は偉人のある習い